

財団法人

日韓文化交流基金 NEWS

no.23



第3回日韓文化交流基金賞
助成事業紹介

イレブン・イレブン・コリア・ジャパン・コンテンポラリーアート2002
パパ・タラフマラ日韓共同製作「Birds on Board」

日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業



目次

- 2 ●巻頭エッセイ
フィールドワークと交流
表紙使用作品および表紙作家紹介
- 3 第3回日韓文化交流基金賞
- 4 2002年日韓国民交流年
記念事業（10 - 12月）
助成事業紹介
・「イレブン・イレブン・コリア・
ジャパン・コンテンツラリーアート
2002」展を終えて 上田雄三
・パパ・タラフマラ日韓共同製作
「Birds on Board」
小池博史
- 8 日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業
- 10 2002年度助成対象事業（下半期）
- 11 日韓文化交流基金事業報告
- 12 ●新任事務局長あいさつ
倭館残影 堀泰三

表紙作品



【刻みより】
木
149 × 124 × 4cm
1973年
東京都立現代美術館蔵
写真提供 東京画廊

表紙作家紹介

李禹煥（リ ユファン）

1936年韓国慶南生まれ。1956年ソウル大学校美術大学を中退し、来日。1961年日本大学文学部哲学科卒業。1967年以降、前衛的な芸術表現を追求しながら国際的に活躍。「もの派」運動の柱として知られ、多くの国際美術展に出品、国内外の美術館などで個展。1969年に論文「事物から存在へ」で美術出版社芸術評論賞入賞。2001年高松宮記念世界文化賞受賞。前パリ国立エコール・ド・ボザール招聘教授、現在、多摩美術大学教授。

巻頭エッセイ

フィールドワークと交流

伊藤亞人・東京大学大学院総合文化研究科教授

はじめて珍島の農村に住み込んで調査を始めたのが1972年なので、30年目を迎える今年は私にとっても大きな区切りの年である。

当時の村はまだほとんどが藁葺き屋根で、まるで茸のように山裾に群がっていたし、行く日も来る日も畑で採れた物をランプの明かりの下で食べるのが農村の生活だった。騒然とした都会とはまったく別世界のようになどかなようでも、秋は皆、農作業に追われていたため、村の人たちの多くは戒厳令が敷かれたことも知らなかった。その当時と比べると、今では藁葺き屋根は一つも見当たらず、村の外見は見違えるようである。村を結ぶ道路もきれいに舗装されていて、村にも自家用車を持つ者が現れた。しかしその一方では過疎化と高齢化がどんどん進んで人影も少ない。人も家畜も月の満ち欠けとともに生活し、満月ともなると夜遅くまでざわめきが聞こえたあの当時の村の活力はもう見られない。

そうした変化を振り返るため、今年は現地の友人たちの勧めで地元の行事の一環としてその当時の写真を展示することになった。村から見に来た人たちの希望に応じて、来年からはパネルを村で常時展示することになりそうである。今後いっそう観光開発が進むと、史跡や天然記念物でも知られるこの村にも観光客が訪れるようになるかもしれないし、そうした人たちに村の伝統文化や社会生活も見てほしいというのである。

実は私自身、毎年この地方の伝統文化と歴史に関心をもつ人たちの案内役となって村を訪問しており、一行のために村では祖先祭祀の時のように豚を一頭潰し、マッコリも本物の農村風に仕込んで歓待してくれる。時にはこれに韓国と日本の学生一行が便乗して50人に膨らんだこともあった。

村の人から見れば、そもそも私のようなよそ者が村を訪ねた時からこうした交流は始まったといってよい。少なくとも村の奥さんたちや若者にとっては研究などどうでも良いのであって、私は異文化からの珍客であり娯楽の種となっていたようだ。当初は私も、研究は相互理解と交流促進のために欠かせないと考え、やがて交流も研究の対象になると考えるようになったが、今では研究も実は交流にほかならないのであって、論文を書いたり学会で発表するのも一行を案内するのと本質的に変わらないと思うようになっていく。



いとう あびと

1943年生まれ。東京大学大学院社会学研究科修了。東京大学東洋文化研究所助手、東京大学教養学部助教授、教授を経て、1994年より現職。専門は文化人類学。主な著書は、『読本 韓国』（河出書房新社、1996年）『韓国珍島の民俗紀行』（青丘文化社、1997年）など。現在、当基金訪韓フェローシップで韓国・ソウル大学に籍をおき、フィールド調査などを行っている。

第3回日韓文化交流基金賞

第3回日韓文化交流基金賞受賞者が決定し、鄭雲在氏（書道家・国際交流書道協会会長）、李世煥氏（国楽奏者・国立国楽院指導委員）、金徳洙氏（サムルノリ奏者・国立韓国芸術総合学校伝統芸術院教授）、金利恵氏（舞踊家・ハヌルリム芸術団舞踊監督）に対し、8月29日の日韓文化交流基金訪韓団答礼晩餐会の席上で、藤村正哉基金会長より賞が授与されました。

受賞者紹介



鄭雲在

（チョン ウンジェ）

1934年生まれ、書道家・国際交流書道協会会長

受賞理由

韓国の国際交流書道協会の会長として、国際書道芸術協会（日本）と協力して日韓共同の作品展示会の開催等により日韓文化交流を積極的に進められました。



李世煥

（イ セファン）

1952年生まれ、国楽奏者・国立国楽院指導委員

受賞理由

韓国国楽演奏（コムンゴ）の第一人者として国際的に活躍し、日本でも毎年公演を開催しています。1999年には国立国楽院初の外国演奏家の公演となった津軽三味線のリサイタルを実現したほか、「コムンゴの会」で日本の舞踊家との交流活動を行うなど、日韓交流への積極的な取り組みが評価されました。



金徳洙

（キム ドクス）

1952年生まれ、サムルノリ奏者・国立韓国芸術総合学校伝統芸術院教授

受賞理由

卓越した演奏者として世界的な活動を展開するとともに、伝統芸術の総合的な研究・継承・発展に力を注いできました。近年では、サッカーワールドカップ開催にちなみ、日韓共通応援歌「A・HE・HO」の作曲や、日本のアーティストとの共演、和太鼓奏者の林英哲氏率いる「鼓童」とともに2002FIFAワールドカップ™公式アンセムに参加するなど、日韓両国で旺盛な活動を続けています。



第3回日韓文化交流基金賞を受賞した4氏



金利恵

（キム リヘ）

1952年生まれ、舞踊家・ハヌルリム芸術団舞踊監督

受賞理由

80年代に韓国伝統舞踊の本格習得のために韓国に定住して以来、海外在住韓国人としては初の無形文化財履修者に認定されるなど、高い評価を得るに至りました。近年は「日韓音楽祭」に参加し、日本で舞踊を通して韓国文化を紹介するなど、日韓交流のために尽力されています。

第18回日韓文化交流基金韓国訪問団

8/27

韓国到着

在韓日本国大使館員によるブリーフィング
崔成泓外交通商部長官主催晩餐会

8/28

ソウルジャパンクラブ役員との朝食会

表敬訪問（金鍾泌韓日議員連盟会長）

在ソウル特派員団との昼食懇談会

表敬訪問（金相履韓日経済協会会長、金聖在文化観光部長官）

具滋暻韓日文化交流基金会長主催晩餐会

8/29

三星電子水原工場視察

表敬訪問（金守漢韓日親善協会中央会）

日韓文化交流基金フェロウシップ経験者との懇談会

藤村団長主催答礼晩餐会 / 第3回日韓文化交流基金賞授与式

8/30

帰国

参加者

団 長	藤村正哉	基金会長、三菱マテリアル 相談役
副団長	熊谷直博	基金理事長
顧問	戸塚進也	基金常任理事、元衆議院議員
顧問	竹内宏	基金評議員、静岡総合研究機構理事長
顧問	三浦隆	基金理事、桐蔭学園横浜大学教授
顧問	沈壽官	基金特別顧問、第14代薩摩焼宗家
団 員	小山敬次郎	基金理事、目白大学教授
団 員	竹下勅三	基金理事、竹下事務所代表
団 員	植崎正博	基金理事、関電産業 取締役社長
団 員	梅田博之	麗澤大学副学長
団 員	石川捷治	九州大学 韓国研究センター長
団 員	前田二生	指揮者
団 員	大竹洋子	東京国際女性映画祭 ディレクター
団 員	衛藤藩吉	東京大学名誉教授
団 員	松本健一	麗澤大学教授
団 員	堀泰三	基金理事・事務局長

2002年日韓国民交流年

日韓国民交流年をしめくくる秋から冬の行事には、
実験的な美術分野やパフォーマンスの展示などが多く企画されています。
「ワールドカップ共催」以後の、「その先」の日韓のパートナーシップに向けた試みは、もう動きはじめています。
さらに日常的に、より重層的に—今年つちかわれた人的・文化的なネットワークが、
日韓の新しい関係を開く鍵になっていくのではないのでしょうか。

2002年日韓国民交流年記念事業（10 12月）2002年8月末現在

7月2日～10月25日	東洋陶磁の展開	大阪市立東洋陶磁美術館
8月10日～10月10日	在日韓国・朝鮮人生活史 写真は語る	東京・高麗博物館
9月5日～10月7日	川俣正コールマイン田川2002 日韓炭住交換移築計画	福岡・田川市伊田成道寺公園野球場、田川市美術館、田川市内、韓国江原道古汗邑、釜山市釜山ビエンナーレ会場
9月7日～11月4日	2002両洋の眼展	山梨・河口湖美術館
9月14日～11月24日	JAPAN-KOREA市民交流フェスティバル2002 ～「朝鮮通信使」日韓横断リレーイベント～	ソウル、釜山、長崎・厳原町（対馬）、山口・下関市、滋賀・近江八幡市、岡山・牛窓町、静岡市、千葉・幕張メッセ、栃木・日光市
9月14日～12月15日	秋季特別展「日本民藝館所蔵 李朝の工芸」	大阪日本民芸館
9月16日～ 2003年3月31日	日本を知るための日本舞踊ワークショップ	在韓国日本国大使館公報文化院
10月1日～11日	日韓山岳写真交流展	在韓国日本国大使館公報文化院シルクギャラリー
10月1日～11月5日	国際交流基金設立30周年記念「現代アジアを概観する」	国際交流基金国際会議場
10月2日～3日	オペラ・ガラ・コンサートin東京	東京オペラシティ コンサートホール タケミツメモリアル
10月3日～9日	第6回日韓スポーツ交流事業 成人交歓交流韓国代表団日本受入	広島県
10月4日～6日	公州アジア人劇祭	公州、ソウル
10月4日～	2002 TOKOHA CG ART展	静岡・常葉美術館（10/4-11）、 釜山市立美術館別館龍頭山ギャラリー（11/26-12/8）
10月4日～11月10日	海洋文化のクロスロード - 済州道の歴史と風土 -	佐賀県立名護屋城博物館
10月4日～12月23日	朝鮮の仏さま	京都・高麗美術館
10月5日	第7回全国高校生日本語弁論大会	圓光大学校 スンサン記念館2F 会議室
10月5日、7日	アジアコーラルデイズ～音楽も今アジアから～	東京オペラシティ コンサートホール タケミツメモリアル
10月6日	国際民俗芸能フェスティバル	静岡市民文化会館中ホール（韓国）、飛騨・世界生活文化センター（中国）
10月6日	かいせい国際交流フェスタinスポ・レク	神奈川・開成水辺スポーツ公園
10月6日	第2回日韓文化交流交歓演奏会（コール・シャンティエ）	ソウル
10月6日～9日	黒石小学校ホームステイ交流	ソウル
10月7日～8日	第24回日韓原子力産業セミナー	東京・アジュール竹芝
10月7日～11日	日韓学生研究発表会への参加（富山大学経済学部内田ゼミナール）	江原道春川
10月9日～12日	日韓自治体友好交流会議	鹿児島・城山観光ホテル
10月11日～13日	韓国現代戯曲ドラマリーディング	東京・ヴァーシティホール
10月11日～11月3日	韓国の彫刻家 申範相と九州の造型作家による交流展	北九州市立美術館講堂、ギャラリー倉屋
10月12日～13日	イマジネーションステージ「THE SAVIOR」	ソウル・国立劇場
10月13日	2002年ワールドカップ成功開催記念 日本大宮市民吹奏楽団 ウォンジュ・アパッショナタ・ウインド・オーケストラ合同演奏会	原州・芸術会館
10月13日	日韓夢の大饗宴「遅すぎた祭典」	東京・中野サンブラザ
10月13日	韓国伝統舞踊の夕べ～金孝淑伝統舞踊～	福岡・春日市ふれあい文化センター
10月13日～14日	GALA CONCERT 日・中・韓オペラコンサート	千葉県文化会館、松戸・森のホール21
10月15日～17日	第1回韓・日位置決め技術シンポジウム	韓国機械研究院
10月17日～22日	第3回日韓交流祭	光州ビエンナーレ展示場、光州文化芸術会館
10月17日～11月9日	国際交流基金設立30周年記念事業 第7回アジア漫画展「アジアの就職事情」	国際交流基金フォーラム
10月19日～20日	朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流大会	滋賀・近江八幡市文化会館、朝鮮人街道一帯
10月20日	韓国・亀尾フェスタ	大津・皇子が丘公園一帯
10月20日	第8回リサイクルデザインフォーラム	横浜・はまぎんホールヴィアマーレ

10月20日	関西フィルハーモニー管弦楽団	兵庫・伊丹市立文化会館「いたみホール」
10月20日～25日	アウトリガーカヌークラブジャパン朝鮮海峡漕破2002	対馬・釜山
10月21日～11月2日	パドゥルズ「アート・リサーチ・プログラム・イン・アジア」	東京・ギャラリー・サージ
10月22日～27日	大邱・光州・広島女性作家交流展	大邱文化芸術会館
10月24日～27日	日韓友好「ハナ」交流事業	ソウル
10月25日	命のボランティアでつなぐ日韓交流シンポジウム	大阪
10月25日～11月4日	大邱JAPAN WEEK	大邱斗山ギャラリー（日本文化展示会）、啓明大学校 スミス館（日本人形紹介事業）、大邱文化芸術会館（日 本語演劇祭、日本語弁論大会、日本舞踊公演）ほか
10月27日	「鳳仙花」の集い～講演・朗読・カヤ琴演奏～	東京・スペースゼロ
10月30日	日韓生涯教育推進研究会（小平ユネスコ協会）	全羅南道順天市
10月31日～12月22日	「洋上のピクニック」展（海上のアート実行委員会）	広島・ヨンウン現代美術館
11月2日～12月8日	「心のやきもの李朝」展	大阪市立東洋陶磁美術館
11月3日	南山寺合唱団招致事業	山口・萩市民館
11月3日	第10回東九条マダン	京都市立陶化小学校
11月3日～4日	韓国伝統芸能「至玉の名華 李梅芳＋池成子」	東京・スパイラルホール
11月5日～10日	大邱広域市と広島市の友好のために西谷勝輝油彩展	大邱文化芸術会館
11月5日～12月26日	韓国映画―栄光の1960年代 (予定) 韓国映画の黄金時代と評価されながら、日本では多くが 未公開だった1960年代の作品が、文芸映画、メロドラ マ、喜劇、伝記、宮廷劇、時代劇、怪談などさまざまな ジャンルから28作品、上映される。	東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール
		
上映予定作品「將軍の髭」(1968年、李星究監督)		
11月6日～7日	千年の聲	東京・スパイラルガーデン
11月8日	日韓国際シンポジウム「古代文化にみる古代日向と韓国」	宮崎県立芸術劇場 演劇ホール
11月9日～11日	日韓アート&ダンスフェスティバル2002 SAL VANILLA 「tatoooo」及びワークショップ活動	ソウル・シアターゼロ
11月12日～13日	第23回国際学術セミナー「日韓経済および企業経営の諸問題」	桃山学院大学
11月14日	「第8回日韓(韓国)国際環境賞」表彰式	慶州
11月17日、20日	チャイコフスキー国際コンクール声楽部門優勝者リサイタル	東京・第一生命ホール、紀尾井ホール
11月19日～20日	オーケストラ・アジア韓国公演	ソウル・国立劇場
11月19日～25日	フィジカルシアターフェスティバル イン ストアハウス	東京・江古田ストアハウス
11月21日～ 2003年2月2日	韓国大衆文化展「ソウル・ポップ」	福岡アジア美術館
11月21日～24日	ミュージカル「はだしのゲン」	ソウル・文化日報ホール
11月22日	朴久玲(パク・クリョン)ピアノ・リサイタル	大阪・ザ・フェニックスホール
11月22日～24日	濱中史朗・萩 大屋窯の陶器・磁器&李朝家具展	福岡・警固神社
11月23日	日韓交流 伝統楽器による音楽のタベ 文京区民オーケストラ/延世大学音楽同友会交歓演奏会	ソウル・延世大学校センテニアルホール
11月23日～12月22日	「韓国の色と光」展	大阪・ATCミュージアム
11月28日～29日	オーケストラ・アジア日本公演	東京・すみだトリフォニーホール、札幌コンサートホール
11月29日～30日	女性のエンパワーメントのための生涯学習拡充方策に 関する調査研究	埼玉・国立女性教育会館National Women's Education Center(NWEC)
12月4日～10日	韓日現代美術展	ソウル・仁寺洞 GANA INSA ART GALLERY
12月6日～7日	趙寿玉チュムパン五方舞 - シナウイ -	東京・日暮里サニーホール
12月7日～8日	彩の国・韓国文化交流推進事業「韓国映画祭(仮称)」	埼玉会館小ホール
12月7日～ 2003年3月2日	大型企画美術展「Under Construction」	国際交流基金フォーラム、 東京オペラシティアートギャラリー
11月5日～8日	日韓VLBIシンポジウム(国立天文台)	慶州

「イレブン・イレブン・コリア・ジャパン・コンテンポラリーアート2002」展を終えて

同展実行委員会代表/ギャラリーQ 上田雄三

日韓文化交流を目的とした展覧会は日本国内で以前より多く開催されている。しかし、ただ単に韓国人と日本人というだけで作家が集まった内輪的な展覧会も実際多く、終了すれば跡形もなく消えてしまう。こうした展覧会が幾度となく繰り返されてきたが、「日韓だから」という交流は、正直言ってもう無意味に思う。

私は今回の「イレブン・イレブン」展を企画するにあたって、作品の質を問うレベルでの交流や、社会での役割、芸術の持つ世界を作家がどう捉えているのかという視点、哲学的な視野に立った交流を目指した。確かに「ワールドカップ」の追い風もあったが、両国の芸術家のみならず、多くの関係者たちと日韓を行き来することで生きた交流の多くの成果を得ることができたと自負する。

“11&11”とは言うまでもなく一つのチームのサッカー選手と同じ人数の日韓の参加作家を意味してもいるが、街の至る所にあるコンビニのように、複雑な日韓の関係を超えてアートによる交流が日常的になってほしいという願いを込めて、コンビニの“セブンイレブン”から拝借したタイトルである。ソウルの会場は省谷美術館、東京での開催は銀座を含めた都内の11カ所の画廊。一般の人たちもランチタイムにふらりと立ち寄れる便利な場所で、結果的に多くの人たちが訪れ、刺激的な展覧会となった。

両国を代表する美術雑誌である韓国の『月刊美術』と日本の『美術手帖』では特集を組み、展覧会の初日には両国の現代美術の動向を探るシンポジウムで両誌の編集長が自国の若い世代の作品をスライドなどで紹介した。この展覧会が縁で二つの美術雑誌は記事を今後も継続的に交換し合うことになったが、このように本展を通じて展覧会に関わる全ての関係者が交流することで、時間と文化を共有し合った。人的交流のみならず、こうした国際文化交流が行われることで、芸術家自身も自国では発見できなかった自己を知るきっかけとなり、視覚芸術を通じて多くの日本人たちが、ブルコギやキムチだけでない現代的な韓国の美術を知ることにもなった。また、難解と言われている現代美術の社会的な役割が、より多くの人たちに浸透し、理解されるまたとない機会を得た。

日韓が文化交流をするのは、かつて仲が悪かったから仲直りをしようというだけでなく、両国の芸術家が自分のために作品を制作することで、自分と社会、自分と世界を認識し、芸術の存在理由を多くの人たちに理解してもらうためであって、どこの国であれ、生きた芸術には社会を変える力があることを私たちは知らせたかった。文化交流の真の目的は互いを鏡とした、私た



オープニングレセプション
- 両国の参加作家、美術関係者を集めて

高洛範 鉄道員 - コバヤシ画廊にて



ち自身による内なる他者の再認識なのであり、見えない歴史的な背景を乗り越えて、より発展的なコミュニケーションとしての未来の交流を目指すことで、次なる時代へのメッセージとならなくてはならない。

東京画廊、ギャラリーQ、コバヤシ画廊、ギャラリー東京ユマニテ、ギャラリーGAN、なびす画廊、ギャラリー山口、ギャラリーなつか、ビューイングルーム・ヨヨギ・ガレージ、ギャラリーES、ギャラリー-21+葉



うへだ ゆうぞう

1951年静岡県生まれ。多摩美術大学卒。1976年に韓国に訪問。日本、韓国において日韓関係の展覧会など多数の企画に携わる。2000年第三回光州ビエンナーレ / アジアセクション日本側事務局長。

助成事業紹介

パパ・タラフマラ日韓共同製作「Birds on Board」

小池博史

5月31日つくばで幕を開け、ソウル、釜山と回ってきた日韓共同製作作品「Birds on Board」が6月23日に東京でひとまず幕を閉じた。この作品は約1年半前に起案し、以降、日本では私が、韓国側はソウルインターナショナルダンスフェスのディレクターであるリ・ジョンホ氏が、共同で進行させてきた企画である。参加者は日本側からは私自身のカンパニーであるパパ・タラフマラが総力で、そして韓国側からは作曲家、ビジュアルアーティスト、ダンサー、俳優がそれぞれひとりずつ参加した。

パパ・タラフマラはすでに多くの海外のアーティストとの共同作業を行ってきた。その経験から言えば、私にとってはアーティストたちと一緒に仕事をするのに、人種はほとんど無関係である。日本人ならば確かにアプリオリに分かり合える部分はあって多少は楽だ。しかし、アート作品を作ろうとするときに、互いに響き合えるかが最も問われ、そこに言葉と資金面の壁

はあっても、人種の壁はない。日本人同士だからうまくいくとは限らない。要はひとつのものを作り上げるのに、共通理解可能なパートをいかに作り出せるかであり、互いに異質なものを面白く思える感性が必要だということだ。

とは言っても、海外アーティストたちとのプロジェクトでは常に言葉と資金の壁は大きい。アイデアはあってもこのふたつの壁が大きく立ちはだかっている。通常、言葉は英語で済む。しかし、今回のプロジェクトでは、言葉はネックだった。韓国人の多くは日本人と同様、英語は得意ではない。よって韓国語・日本語の通訳を入れた。でも、常にダイレクトなコミュニケーションの方が言葉はダメでも心が伝わりやすいもの。私たちは、徐々に片言コミュニケーションを試み、ゆっくりと互いに納得するようになっていった。

そして資金面である。日韓文化交流基金から資金助成を頂いたが、他にも文化庁、セゾン文化財団、Korea Foundationからの助成があり何とか凌

ぐことができた。

日本にとって、近々の課題、いや現時点ですでに課題となっているのは、いかにして外国との共通理解を図っていくかだろう。もちろん私たちとしてはこのような大層な命題を掲げてやっているわけではない。単純に「知らないこと」「別の身体」「別の思想」が楽しくて、またそこから何かを発見したくて、人種の異なった、あるいは文化圏の違うアーティストたちと共同で製作するわけだ。しかし、それでも、この作業過程がいかに有効かを常々、実感している。なぜなら、舞台芸術の仕事とは、結局は深くまで相手に立ち入っていかざるを得ない作業だからだ。それなしには、表面をなぞるだけで終わってしまう。文化並列化など何の意味ももたないし、何も私にもたらしはしない。いかに対立し、溶け合い、コミュニケーションを行っていくかが問われているのである。

韓国人アーティストたちとの作業は、その意味でとても楽しい作業となった。参加者たち全員が再び実施したいと思った作業になっていたのだから。



こいけ ひろし

一橋大学社会学部卒。テレビディレクターを経て、1982年、パパ・タラフマラ設立。以降全35作品の作、構成、演出を手掛ける。海外公演多数。国際的に高い評価がある。1997年、つくば舞台芸術監督に就任。1998年、「アジア舞台芸術家フォーラムイン沖縄」開催。その後アジアアーツネット設立に参画。



Sakae Ogura

Sakae Ogura



日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業

日韓中高生交流事業の一環であり、今年で4年目となる日韓ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業がそれぞれ14泊15日の日程で行われました。本事業は日韓首脳会談合意事項に基づき、1999年度より当基金が財団法人ボーイスカウト日本連盟と社団法人ガールスカウト日本連盟に事業実施委託しているものです。

ボーイスカウト日本連盟側が招聘した韓国スカウト100名は7月31日に来日しました。都内視察の後、大阪で開かれた第13回日本(第23回アジア太平洋)ジャンボリー大会に参加、日本全国から集まったボーイスカウトと共にキャンプ生活を実践し、平素の活動の成果を発揮しました。その後、3

つの隊に分かれ、兵庫、京都、和歌山の各地でホームステイをしました。

8月11日、神奈川に再集合した一行は、日韓/日韓米スカウトフォーラムに参加、パネルディスカッション、グループディスカッションを通し、積極的な意見交換が行われました。3日間のフォーラムで日本での日程を終えた韓国スカウトは、8月14日帰国の途につきました。

一方、ガールスカウト日本連盟側は、「遺産は私たちのたから～心のきずなで未来を創ろう!」をテーマに韓国スカウト50名を招聘しました。7月29



韓国のボーイスカウトたち

日に来日した一行は、3つのコースに分かれ、日本各地で交流することになりました。Aコースは長野県戸隠村の日本連盟主催レンジャー全国キャンプで野外活動体験、Bコースは群馬で視察やホームステイ体験、Cコースは岐阜、富山で視察やホームステイ体験をそれぞれ行いました。

10日目の8月7日からは3コースが合流し、都内視察や本部での韓国理

日 程

● ボーイスカウト

7月31日(水)	成田着 歓迎会
8月1日(木)	都内視察
8月2日(金)～7日(水)	第13回日本ジャンボリー大会参加(大阪)
8月8日(木)～10日(土)	ホームステイ(兵庫、京都、和歌山)
8月11日(日)～13日(火)	日韓米スカウトフォーラム参加(神奈川) 歓送夕食会(8/13)
8月14日(水)	成田発 帰国

● ガールスカウト

	【Aコース】	【Bコース】	【Cコース】
7月29日(月)～8月6日(火)	成田着 レンジャー全国キャンプ(長野)	成田着 歓迎会(群馬)、スカウト交流会、前橋 市内視察、ホームステイ、日本伝統文化 体験など	名古屋着 歓迎会(岐阜、富山)、スカウト交流会、 市内視察(岐阜、高山)、ホームステイ など
8月7日(水)～9日(金)	都内視察など		
8月10日(土)	韓国DAY		
8月11日(日)	評価会、フェアウェルパーティ		
8月12日(月)	成田発 帰国		



日韓のガールスカウトたち

解促進プログラムに参加しました。8月10日の「韓国DAY」では、全国から集まった約600名のガールスカウトを前に、韓国文化を紹介しました。民族舞踊や伝統衣装の披露から韓国料理の試食まで、多様なプログラムは参

加者に変大好評でした。最終日、今回の交流を振り返ると共に、今後の活動への意気込みを語り合う「評価会」で行事の総括を行い、8月12日に帰国しました。

プログラム終了後のアンケートによ

ると、「日韓両国の文化を互いに理解できた。引き続きより良い関係作りのために努力しよう。」といった声が多く聞かれました。双方の参加者に芽生えた交流の芽は今後も着実に育まれることでしょう。

両国の参加者に聞きました

ボーイスカウト

- 日本の参加者の意見をまとめました。

ディスカッション

韓国と日本の考え方の相違点がよく分かった。

新しく知ったことも多かった。たとえば、学校、教育文化、その他多くの話があった。

韓国スカウトの発言の量、レベルともに高く、日本スカウトは韓国スカウトの勢いに押され気味だった。

日程

見学はもっと時間があればよかった。

立食パーティでは、グループ以外の韓国スカウトとも交流し、友達になることができた。

プログラム全体について

ひとつのことを成し遂げるときは、人種など関係なく、すぐに一つにまとまることのできるということをあらためて感じた。

自分たちの世代では先入観がなく、意見を柔軟に受け入れあえると感じた。



歓送夕食会（ボーイスカウト）

もう少し英語ができれば「言葉の壁」も少しは薄くなったかもしれない……と、今さらながら悔やまれる。

ガールスカウト

韓国DAY

予想外に多くの人に来て驚いた。日本人が韓国に対し、関心を持っていることを知ってうれしかった。（韓国）

日本のガールスカウトが韓国についてあまりにも知らないことに少しがっかりしたが、この行事を通じて私たちの文化紹介に対する意欲がわいた。（韓国）



韓国DAY（ガールスカウト）

評価会、フェアウェルパーティ

企画するにつれて、場所はとても近くても心は遠い国なのかなと思った。でも、近くて遠い国ではなく、とても近い国であることを伝えたい。（日本）

今回、日本の高校生のスカウト（レンジャースカウト）がプログラムの企画を行ったが、ひとつのプログラムを全て自分たちで企画

し、運営することはすごく大変だということを感じた。韓国DAYでは韓国の文化を紹介してもらったので、今度は日本の伝統的な遊びや文化を紹介したい。（日本）

プログラムの全てが大人の企画であると思っていたが、日本のレンジャースカウトたちが企画し、実施したと聞いて驚いた。本当に全てが完璧であつたし、楽しいプログラムが多かった。（韓国）

テーマについて

言葉の壁はなく、心と心のきずなができた。さらに仲よくなり、このきずながとてもだいじなものだということを広めていきたい。（日本）

日韓両国のガールスカウト、リーダー、コア実行委員、事務局の方々、みなさんとのきずながたからとなった。（日本）

韓服の着付けのコーナーがとても人気があり、どこに出しても引けを取らない自分たちの文化として誇りに思った。（韓国）

国籍は違っても、ウォークラリーや観光、見学、ホームステイなどをしながら、私たちが感じた気持ちが似ていて、言葉は通じなくてもお互いに意思疎通できるものを感じつつ、精神的なきずなが私のたからになった。これからお互いに信頼することで、このたからを継承してゆきたい。（韓国）

離れて暮らしていても、困ったときは助け合ったりできるし、韓国のガールスカウトと友だちになれたことで、自信になったので、それをいろいろなことにチャレンジするエネルギーにしたい。（日本）

2002年度助成対象事業（下半期）

2002年度下半期の助成事業の募集には61件の申請があり、
この中から26件への助成が決定いたしました。

青少年・草の根交流 11件

事業名	申請団体	実施時期	場所
日韓着物着付ボランティア親善交流事業	へいわ西尾張インターナショナルクラブ	2002/10/1-10/5	ソウル、大田
黒石小学校ホームステイ交流	黒石小学校PTAホームステイ交流委員会	2002/10/6-10/9	ソウル・黒石初等学校
日韓紙すき交流	紙好き工房空と海	2002/10/11-10/13	千葉・船橋市立船橋小学校講堂
日韓文化交流「コサリの架け橋」	わらび座	2002/10/21-10/23	秋田・たざわこ芸術村
第3回日韓学生シンポジウム ～材料の電気化学特性とその応用～	東北大学多元物質科学研究所水崎研究室	2002/10/30-11/3	ソウル大学校
乙訓高校・ソウル高校『日韓高校生スポーツ 交流・史跡フィールドワーク交流』	京都府立乙訓高等学校硬式野球部保護者会	2002/11/15-11/18、 2003/3/22-3/25	京都府立乙訓高等学校、 ソウル高等学校
ヨコハマ・ハイスchool・ミュージック フェスティバル2002入賞者交流コンサートinソウル	ヨコハマ・ハイスchool・ミュージック フェスティバル実行委員会	2002/12	在韓国日本大使館公報文化院ホ ール
日韓ユース音楽交流	日韓ユース音楽交流実行委員会	2002/12	ソウル・総合芸術学校、東京
第30回日韓学生会議	日本国際学生協会	2003/1/4-1/9	京都、大阪
第2回日本大学・韓国中央大学 心理学研究交流	日本大学大学院文学研究科心理学研究室	2003/1/17-1/23、 3/10-3/17	日本大学文学部100周年記念館、 韓国・中央大学校心理学研究室
静岡市男声合唱祭参加	ソウル長老聖歌団	2002/10/12-10/15	静岡市民文化会館

シンポジウム・国際会議 5件

事業名	申請団体	実施時期	場所
東アジア日本語教育・ 日本文化研究学会国際学術会議	東アジア日本語教育・ 日本文化研究学会	2002/10/26-10/27	福岡大学
日韓文学シンポジウム02 in 原州	日韓文学シンポジウム実行委員会	2002/11/4-11/8	江原・土地文化館
グローバル・フォーラム日韓対話 「東アジアの将来と日韓協力の可能性」	グローバル・フォーラム	2002/11/14-11/15	東京全日空ホテル、国際文化会館
東アジア近代史と政治リーダーシップ： 韓・日・中の比較研究	韓国東洋政治思想史学会	2002/12/12-12/15	ソウル・タワーホテル
第4回日韓平和教育シンポジウム	日韓平和教育研究会	2002/12/26-12/28	一橋大学

芸術交流 10件

事業名	申請団体	実施時期	場所
アジア小劇場演劇ネットワーク 釜山参加日韓合同公演「家族の神話」	タイニイアリス	2002/10/1-10/3	慶星大学校小劇場
KOREAN TYPHOON 2002	コリアの風実行委員会	2002/10/4-10/6	兵庫・尼崎市立尼崎高校、 ソニックホール、ピフレホール
ゆうもあくらぶ 日韓文化交流訪問団	ゆうもあくらぶ	2002/10/6-10/9	在韓国日本国大使館公報文化院 ホール、韓国外国語大学校
韓国現代戯曲ドラマリーディング、 ワークショップおよびシンポジウム	日韓演劇交流センター	2002/10/11-10/13	東京・ヴァーシティーホール
荒木経惟写真展 「小説ソウル／東京物語」関連企画	ナンジョウアンドアソシエイツ	2002/10/25- 2003/2/16	ソウル・イルミン美術館
日韓文化交流年記念公演 音楽劇「セロ弾きのゴーシュ」	NPO法人国連クラシックライブ協会	2002/11/1-11/3	大邱文化芸術会館
日韓国民交流年特別企画 韓国交流茶会	福岡茶道文化連盟	2002/11/2-11/5	福岡市美術館
第1回JFC国際交流コンサート ～日本公演・韓国公演～	社団法人 日本作曲家協議会	2002/11/12-11/13、 11/26-11/27	東京・すみだトリフォニーホー ル、ソウルアーツセンター
2002年日韓親善工芸展覧会	木戯の会	2002/12/9-12/17	光州現代デパートギャラリー
「海と日傘」日韓プロジェクト	「海と日傘」日韓プロジェクト実行委員会	2003/3/13-3/30	京都芸術センター

2003年度助成事業募集要領

【図書出版】

2003年度は、従来の「一般図書」の部門と、今回から新設された「学術定期刊行物」の部門に分けて募集を行います。「学術定期刊行物」の対象となるのは、**日本に所在する人文社会科学分野の学会・研究会等が、韓国・朝鮮に関する研究活動の成果報告として刊行する学術誌、**2003年4月から2004年2月までに出版を完了できること、以下のいずれかあるいは両方の条件を満たすこと、1) 編集担当者とその号のテーマ・編集方針が決定していること、2) 論文公募の場合はレフェリー制をとっていること、刊行部数は原則として300冊以上が望ましい、の条件を全て満たすものです。募

集期間は両部門とも2002年12月1日から12月15日までです。要項及び書式は、基金に直接問い合わせるか、基金ウェブサイトからダウンロードして入手してください。

【人物交流】

2003年度(2003年4月～2004年3月)の要項が完成しています。2003年度の上半期募集(2003年4月～2004年3月に実施する事業)は、2003年1月6日から2月1日まで、下半期募集(2003年10月～2004年3月に実施する事業)は2003年7月1日から8月1日までです。要項及び書式をご希望の方は、基金に直接問い合わせるか、基金ウェブサイトからダウンロードして入手してください。

2003年度招聘・派遣フェロースhip

現在、2003年度の研究者招聘・派遣フェロースhipの受け付けを行っています。招聘フェロースhipは、在韓日本国大使館、総領事館で申請を受け付け、派遣フェロースhipは日韓文化交流基金で受け付けます。締め切りは2002年10月末日です。

報告書

以下の事業の報告書が完成しました。

- 日韓青少年交流ワークショップ
「韓国語でノジマ2」
(2002年3月9日～10日実施)



- 日本における韓国・朝鮮研究
研究者ディレクトリ 2001年調査



訪日団

団体名	計	男	女	期間
教員(初等学校)	20	11	9	7/2-7/11
教員(中学校)	20	12	8	9/24-10/3
教員(高等学校)	20	14	6	9/24-10/3

訪韓団

団体名	計	男	女	期間
山口県教員	20	14	6	7/2-7/11
大学生(第1陣)	20	7	13	9/3-9/12

中高生訪日研修

団体名	計 ¹	男 ²	女 ²	訪問校	期間
中学生(第1陣)	106	55	45	福岡市立青葉中学校、高取中学校	9/10-9/14
中学生(第2陣)	106	44	56	太宰府市立太宰府西中学校	9/24-9/28

1 引率含む 2 生徒のみ

倭館残影

日韓文化交流基金理事 堀泰三



わが国の釜山総領事館は、釜山市の草梁洞にあります。私は、今年の3月まで釜山総領事をしていました。が、地元の古老は、総領事館一帯を古館と呼んでいました。しかし現在の地図には古館という地名はなく、総領事館から100メートルほど先に「古館入口」というバス停があり、その付近に古館薬局や古館アパートがあるだけでした。

そこで古館の由来について調べてみたところ、その場所（現在の水晶洞）には、1607年に豆毛浦倭館が開設されていたが、それが狭くなり、1678年に新しい草梁倭館に移転したため、昔の倭館があったという意味で古館と呼ばれるようになったようです。

倭館とは、日本からの使節の接待、宿泊のために朝鮮側が設けた一種の外交施設ですが、同時に商取引も行う現在の商社のような役割も果たしていました。

資料によれば、草梁倭館は、龍頭山の麓一帯に約10万坪の敷地をもっ

ており、そこには、対馬藩の役人を中心に通訳官、商人、職人、料理人など全部で約500名の日本人が1、2年交代で常駐していたと記録されています。

そして、倭館にいる役人の主な仕事は、朝鮮通信使に関して朝鮮政府と交渉・連絡する外交事務や貿易業務の他、朝鮮を通じて中国情勢の情報を収集することなどであり、徳川幕府の海外に開かれた窓口の役割を果たしていました。

この倭館は、1873年まで続き、その間にほぼ徳川幕府の将軍が交代する毎に、朝鮮通信使が12回も日本に派遣されました。徳川幕府は鎖国政策をとっていたので、日本の知識人達は、先を争って朝鮮通信使から新しい知識を得ようとしていました。

1998年に金大中大統領が、国賓として日本を訪問した際、晩餐会の席上で「韓日間には一時不幸な時代もあったが、歴史的に見れば、不幸な時代より友好的な時代の方が、ず

っと永かった」という趣旨を述べられました。私も、このような友好的な関係を両国の学者がもっと多く研究して、学校の歴史教科書にももっと詳しく載せられることを希望しています。

倭館に関する詳しい史料は、対馬藩の「宗家文書」に収録されていますが、その主要部分は、戦前、朝鮮総督府が借り出し、日本人の学者が研究していました。戦後、その文書は韓国の国史編纂委員会の所蔵になり、日本人学者の閲覧が困難になりました。それで1986年に行われた日韓外相会談の席上、長崎県出身の倉成外相が、日本側学者の要望を入れて宗家文書を閲覧できるよう韓国側に要請したことがあります。

現在、日韓文化交流基金図書センターには、韓国国史編纂委員会所蔵の「対馬宗家文書」目録全8巻と同文書のマイクロフィルム169巻が備えられており、日韓両国の専門家の方々に利用されています。